

「知的障がいのある児童生徒の特性と授業づくり」

日時	平成29年7月5日(水)		受講者	22名
目的	知的障がいのある児童生徒の特性理解と授業の基本的な内容について、演習、協議を通じた研修を行い、実践力の向上を図る。			
講義	1 「知的障がいのある児童生徒の特性と授業づくり」	特別支援教育センター 指導主事 林 裕子		
講義	2 「子どもの理解とかかわりの視点」(疑似体験)	特別支援教育センター 指導主事 今泉 祥子		
		特別支援教育センター 指導主事 林 裕子		
協議	「これからの授業づくり」	特別支援教育センター 指導主事 今泉 祥子		
		特別支援教育センター 指導主事 林 裕子		
		特別支援教育センター 指導主事 渡部 和幸		
		特別支援教育センター 指導主事 富村 和哉		
<講義1>	<p>「知的障がいのある児童生徒の特性と授業づくり」</p> <p>学習指導要領を正しく理解し、児童生徒の実態把握を丁寧に行うことの重要性と、知的障がいの特性を踏まえた授業づくりについて深く考えました。参加者同士で話し合い、互いに学び合ながら、授業について考えました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の動向 2. 知的障がいの特性 3. 授業づくり 		<p><講義2></p> <p>「子どもの理解とかかわりの視点」(疑似体験)</p> <p>発達に障がいのある児童生徒が抱えている学びにくさを疑似体験し、様々な認知特性を理解するだけでなく、教師が何気なく行う言葉かけの重要性にも気づき、明日からの授業について考えました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①見どころを識別する困難さ ②子どもの視野・視界 ③手指の器用さ、目と手の協応 ④図を覚えて模写する 	
<協議>	<p>持参した授業案の中で予想される子どものつまづきを洗い出し、そのつまづきに対する具体的な手立てをグループで検討して、授業実践に生かしてもらえるようにしました。演習で、これから実践する授業の中で、「児童生徒に身に付けさせたい力」「予想されるつまづき」「具体的手立て」についてワークシートに記入し、5~6人の協議グループで具体的に話し合ったことで、授業実践に生かせる手立てをたくさん出し合うことができました。</p>			
受講者の感想				
<p>○校種によって色々な状況、生徒の課題等があることを学べて良かった。その中でどう対応していくか意見を出し合い勉強になった。今後に活かしていきたいと思います。(特別支援学校教諭)</p> <p>○疑似体験で子どもの目線を知り、いろいろな認知理解を再確認して勉強になりました。(特別支援学校教諭)</p> <p>○今、担任をしている児童の実態に合わせ、明日から実践できるものがたくさんあり、とても良かった。(小学校教諭)</p> <p>○一日を通して、たくさんの情報、アイデアをいただけて充実した研修になりました。明日からまた頑張るエネルギーがもらえました。(小学校教諭)</p> <p>○一方的な講義ではなく、話し合いや体験等が入り、とても分かりやすかった。先生方から色々アドバイスをもらうことができ良かったです。また、さまざまな授業内容を聞くことができ、とてもよい勉強になりました。(中学校教諭)</p> <p>○自分の視野を広げたり、考える角度を変えたりすることができたような気がする。目の前の子供の要求に応えられるようありたいと再確認しました。(中学校教諭)</p>				

